

# 日本、南西諸島の監視強化

今年9月の尖閣事件は、自国の海洋権益を強烈に主張する中国の姿を世  
界に示した。その背景には「海洋大国」への準備を着々と進める中国の戦  
略的野心ものぞく。警戒を強める日本、米国、南シナ海沿海諸国の現場を  
取材した。「攻防」は、予想を超えて熱をおびていた。

沖繩本島の南西約300  
<sup>キ</sup>。宮古島のほぼ中央部にあ  
る小高い丘の上に、その施設  
はあった。周囲は一面サトウ  
キビ畑だ。

高さ約30層の巨大なサイロ  
のような塔が二つ。その横に  
ほぼ同じ高さの倉庫のような  
建物が見える。六角形を真ん  
中で半分に切ったような不思  
議な形をしている。すべて緑  
色に塗られていて窓は一つも  
ない。

自衛隊の内部で「フラフォ  
ー」と呼ばれる通信・電波  
情報収集(SIGINT)  
施設だ。正式名称は「地上電  
波測定装置J/FLR-4  
A」。航空自衛隊宮古島分屯  
地の敷地内にあるが、その全  
容は基地の外からもよく見え  
る。写真。  
航空機や地上の通信施設が  
発するあらゆる通信や電波を  
キャッチする。サイロのよう  
な塔や建物の内部には様々な  
周波数に対応するアンテナが  
収められている。航空機の無

線通信はもちろん、搭載レー  
ダーの電波、航法支援システ  
ム、火器管制システムなどが  
発する電子音も捕らえ、どう  
いう飛行機か、何をしている  
のかを割り出す。メーンのタ  
ーゲットは当然、東シナ海沿  
岸や上空を飛ぶ中国機だ。

「フラフォー」は自衛隊が  
持つ最新鋭のSIGINT施  
設で、福岡市・脊振山に次い  
で(ここが全国で2カ所目。昨  
年、運用が開始されたばかり  
だ。現在、3基目が五島列島  
の福江島で建設中。いずれも  
九州以南だ。

集めた情報はすべて、東京  
・府中にある航空自衛隊作戦  
情報隊に上げられ分析され  
る。  
非常に秘匿性の高い施設  
で、基地の敷地内なのに、周  
囲をセンサー付きのフェンス  
が囲んでいる。入り口は施錠  
されキーパッドがついてい  
る。許された取材は建物を外  
から眺めるだけ。フェンスの  
中には入れてもらえなかつ

た。

沖繩本島南部、糸満市の丘  
の上にある航空自衛隊与座岳  
分屯地の中では今、高いクレ  
ーンが設置され新しい施設の  
建設が進められている。直径  
約30層の円形のコンクリート  
の基礎が姿を現したところ  
だ。

この上に、弾道ミサイルの  
探知・追尾能力を持つ「固定  
式3次元レーダー」(J/F  
PS-5)が作られる。レー  
ダーのカバーが怪獣ガメラの  
甲羅に似ていることから、自  
衛隊内でも通称「ガメラレー  
ダー」と呼ばれている。鹿児  
島県・下甕島、新潟県・佐  
渡、青森県・大湊について、  
全国で4基目だ。

九州・南西諸島では今、空  
だけでなく海上、海中を含め  
各種探知施設・装備の新設、  
更新が相次いでいる。海外の  
専門家の間でも「冷戦後、世  
界で最も注目すべき諜報能力  
の改善」(ボール豪州国立大  
教授)と見られている。



# 検証 中国の海洋戦略

## 中国海軍と周辺諸国

中国軍は保有する兵器や兵力を公表しておらず、正確な実態を把握することは難しい。21年間2けたの伸びを続けてきた国防予算は2010年、5321億元（約6兆9千億円）で前年実績比7.5%増となったが、これには新兵器の開発費などが含まれておらず、米国防総省は、実態はその2～3倍に上ると推計している。

胡錦濤指導部はなかでも海軍を重視し、予算を重点的に

充てているとされる。2010年の中国海洋発展報告によると、09年に国産空母の建造計画を策定した。国産の一番艦は14年に完成する予定だ。

米シンクタンク、ヘリテージ財団によると、潜水艦建造も非常に活発で、25年には78隻に達し、日本、米国、オーストラリアの合計保有隻数を上回るとの予測もある。インド、ベトナム、インドネシア、マレーシア、豪州、韓国など周辺国も、対抗するように潜水艦調達を急いでおり、「水面下の軍拡競争」が起きている。

## 沖大東島を「戦場」に演習

12月9日。沖縄本島東海域。日米共同統合演習「キーソード」に参加している米空母ジョージ・ワシントンに同乗取材した。米空軍嘉手納基地から輸送機で約1時間、洋上を飛んで着艦した。

艦の中核、CDC（戦闘指揮所）に入ると、画面には、沖大東島が示されていた。担当の米海軍将校はそこを「戦場」にして、島嶼防衛のさまざまな訓練が行われていることを明らかにした。

艦長らは「特定の国を対象にしたものではない」と繰り返し、敵を有効に拒絶する戦略

12月9日。沖縄本島東海域。日米共同統合演習「キーソード」に参加している米空母ジョージ・ワシントンに同乗取材した。米空軍嘉手納基地から輸送機で約1時間、洋上を飛んで着艦した。

今年4月、中国の新华社通信社系列の新聞「国際先駆導報」が、中国の海洋戦略に関する記事を2本、相次いで掲載した。

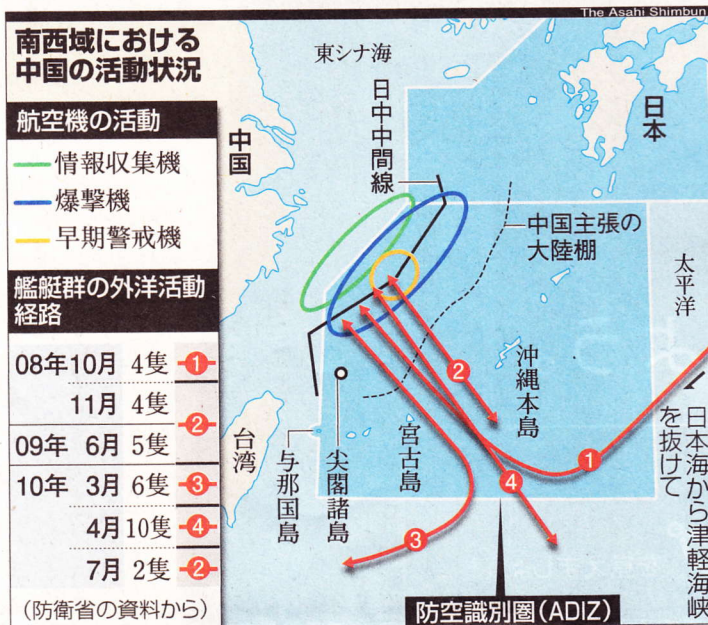
中国にとって太平洋やインド洋への出口となる航路は、沖縄・宮古間の「宮古水道」など計九つある。大きな図と指摘。「平時は監視され、戦時は封鎖される」と危機感をあらわにした。さらに、そうした航路に「自由に出入りし、敵を有効に拒絶する戦略

目標を達成する必要がある」という中国海軍関係者の発言を引用した。



①東シナ海に浮かぶ尖閣諸島「魚釣島」＝20日午後、沖縄県石垣市、本社機から、山本裕之撮影

②航空自衛隊宮古島分屯地内に立つ最新鋭の通信・電波情報収集施設「フラフォー」＝沖縄県宮古島、加藤写す



## 南西重視の戦略

「『南西の要』戦略」——新しい防衛計画の大綱の策定を前に、防衛省陸上幕僚監部が作った内部資料のタイトルだ。

それによると、南西諸島にまず、平素から陸自部隊を配備して作戦基盤を確立する。紛争の兆候があれば、全国から部隊を機動的に展開。万が一抑止が破れ戦闘になった

ら全力で侵略を排除する、というものだ。狙いは、「南西地域における日米のパワーバランスを中国に対して優位に保持し、中国に日米の国益を脅かす企図を断念させること」とある。

要するに中国抑止戦略だ。

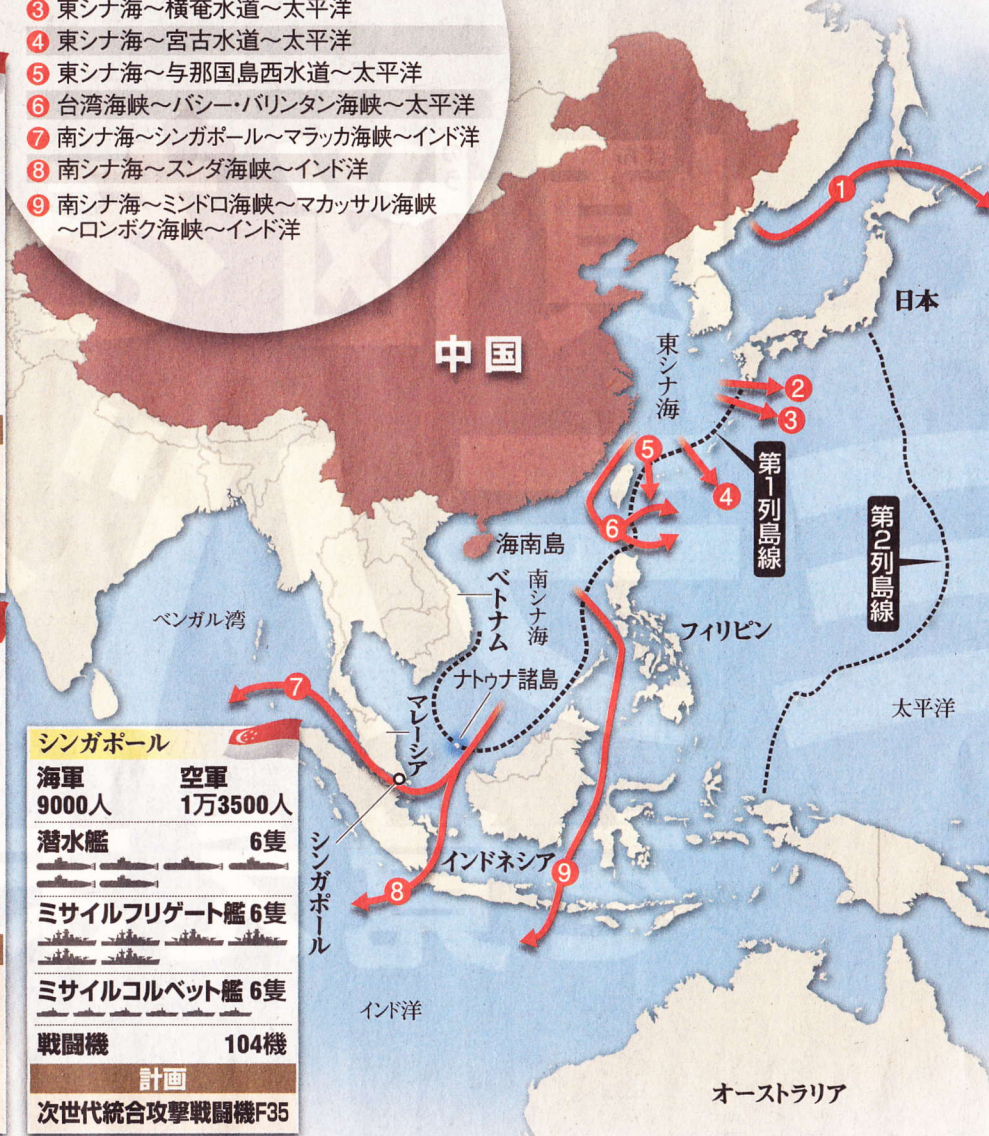
英語版が作られ、すでに米側にも説明されている。（編集委員・加藤洋一）



# 泳ぎ出る巨龍 九つの門

## 中国の大洋への「出口」

- 1 図們江～日本海～千島列島～西北太平洋
- 2 東シナ海～大隅海峡～太平洋
- 3 東シナ海～横奄水道～太平洋
- 4 東シナ海～宮古水道～太平洋
- 5 東シナ海～与那国島西水道～太平洋
- 6 台湾海峡～バシー・バリタン海峡～太平洋
- 7 南シナ海～シンガポール～マラッカ海峡～インド洋
- 8 南シナ海～スダ海峡～インド洋
- 9 南シナ海～ミンドロ海峡～マカッサル海峡～ロンボク海峡～インド洋



アジア・太平洋地域の各国の主な兵力現状

中国	
海軍	25万5000人
空軍	30~33万人
潜水艦	65隻
フリゲート艦	50隻
駆逐艦	28隻
戦闘機、爆撃機など	約3350機
計画 (2014年)	
空母	2隻 (うち1隻は訓練用)

インドネシア	
海軍	4万5000人
空軍	2万4000人
潜水艦	2隻
ミサイルフリゲート艦	7隻
コルベット艦	23隻
戦闘機	96機
2024年まで	
潜水艦	12隻 (うち2隻はロシア製キロ級か)
ロシア製戦闘機スホイ	180機

ベトナム	
海軍	1万3000人
空軍	3万人
潜水艦	2隻 (北朝鮮製キューゴ型2隻)
フリゲート艦	5隻
ミサイルコルベット艦	6隻
戦闘機	219機
計画	
潜水艦	6隻 (ロシア製キロ級)
ロシア製戦闘機スホイ	24機
短距離弾道ミサイル	(イスラエルと交渉中か)

シンガポール	
海軍	9000人
空軍	1万3500人
潜水艦	6隻
ミサイルフリゲート艦	6隻
ミサイルコルベット艦	6隻
戦闘機	104機
計画	
次世代統合攻撃戦闘機F35	

日本	
海上自衛隊	4万2400人
航空自衛隊	4万3700人
潜水艦	16隻
護衛艦	52隻
戦闘機	361機

オーストラリア	
海軍	1万3230人
空軍	1万4056人
潜水艦(コリンズ級)	6隻
フリゲート艦	12隻 (うちミサイルフリゲート艦4隻)
戦闘機	109機
2030年まで	
潜水艦	12隻
早期警戒機(AEW&C)	6機
次世代統合攻撃戦闘機F35	100機

主な重拵計画

日本の防衛省、各国の国防当局、英国国際戦略研究所などの資料から